

2018 (H30) 年度

# 事業計画書

2018 (H30) 年 4 月 1 日 ~ 2019 (H31) 年 3 月 31 日



社会福祉法人

神愛会



社会福祉法人神愛会  
2018年度 事業方針・計画

《神愛会の理念》

「キリストの愛を以って互いに仕える」

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と言われたイエス・キリストの戒めに従い、キリストと同じ愛を以って、助けを必要とするすべての人のために奉仕します。

《神愛会の使命》

神愛会は、「キリストの愛を以って互いに仕える」ことを基本とし、すべての人が個人として最大限に尊重され、人生の最後の瞬間まで尊厳をもって生きることができるよう、あらゆる努力を継続して一人一人の自律した生活を支えます。

《事業方針》

1. 常に神愛会の理念に立ち返り、利用者本位のサービスに努めます。
2. 利用者の豊かな生活を支援するため、常にサービスの質の向上に努めます。
3. 福祉専門職としての資質向上を目指し、常に自己の研鑽に努めます。
4. 地域に開かれた事業を進めるため、様々な人々と連携に努めます。

《事業計画》

— 「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。 —

【丁寧】 注意深く念入りであること  
細かい点にまで注意が行き届いていること  
動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

1. 理念の継承
  - ① 神愛会の基本理念・使命を継承する活動を進めます。
2. サービスの質の向上
  - ① 特別養護老人ホーム（ショートステイを含む）では、認知症介護と看取り介護の充実を図り、より安心・安全な生活を実現する介護を実現します。そのための介護・看護職員の充実に傾注し、閉鎖中ユニットの早期再開を目指します。
  - ② デイサービスセンターでは、「利用者一人一人が営む日常生活全体を丁寧に見つめ、住み慣れた自宅での生活ができるだけ継続していくために必要な健康及び体力の増進、日常生活動作の向上を図るとともに、利用者に対するすべてのケアにあっては丁寧に根拠を求めながら実践していきます。

- ③ 深和ホームでは、入居者の高齢化に伴い介護・看護面に充分配慮し安心安全な生活の支援、居者の終末の希望を把握した対応、老朽化した建物の維持管理と機器備品の点検、劣化したナースコールの新設を行います。
- ④ 居宅介護支援事業では、引き続き上富田町を中心にした地域包括ケア実現に努めるとともに、この圏域で仕組み作りが進められている在宅医療・介護の連携システムがより円滑に機能するように最大限の協力をしていきます。
- ⑤ 地域における公益的な取り組みを検討し実施します。
- ⑥ 介護職員の養成事業を実施します。

### 3. 職員の資質の向上

- ① 園内研修内容を充実させ、効果的な職員研修を実施します。
- ② 介護職員の定着と養成のための研修を実施します。
- ③ 介護福祉士他専門資格の取得を支援します。

### 4. 地域の人々との連携

- ① 地域の医療・保健・介護機関との連携を強化します。
- ② ボランティア活動を充実させます。
- ③ 後援会、家族の会との協働を充実させます。

### 5. 岩田旧施設の整理

- ① 岩田旧施設整理のための検討を継続します。

2018年度 法人本部 事業計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 事業計画

	事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)
1	①理念・使命の継承	i 職員における理念の浸透・継承	i 年間を通じて採用時研修において	i 新採用者オリエンテーション 理念・沿革を学ぶ研修 朝の祈りの継続 聖社連大会への参加	i 聖マリア院の活用 日曜礼拝への参加  聖公会に連なる社会福祉事業を学ぶ
2	①地域貢献事業への取り組み	i 社会福祉法人の地域貢献活動への取り組み	i 介護職員初任者研修の開講検討  ii 社福軽減の拡大  iii その他の課題の検討と実施	i ii 本部事務局で実施  iii 社福軽減以外の項目で神愛会が出来る事を検討し、取り組みを開始する。	i ii 本部事務局で実施  iii 社福軽減以外の項目で神愛会が出来る事を検討し、取り組みを開始する。
	②特養・ショート介護職員の充足と養成	i 閉鎖中のユニットの再開	i 特養・ショート職員10名(上半期5名・下半期5名)の確保	i 本部事務局・特養施設長による	i 可能な限り採用面談の機会を設ける。  ii 少ない応募者の確実な定着を図る。  iii 外国人技能実習生受入れの検討。
	②認知症ケア・看取りケア	i 実践的な認知症ケアの導入  ii ユニットリーダーの育成  iii ユニットケアの進展	i 認知症介護実践者研修  ii ユニットリーダー研修  iii ユニット活動計画の実施	i 認知症介護実践者研修  ii ユニットリーダー研修  iii ユニット会議で	i・ii 参加者によるフィードバックの実施  iii 期中での進捗状況点検
3	③設備維持・防災	・防災訓練の充実   ・緊急呼び出し訓練	・防災訓練(年2回)の実施(初期消火・避難誘導)   ・毎年1回実施	・上富田消防署及び防火管理者による消火器・消火栓取扱指導説明 ・防災訓練の見直し   ・緊急連絡網による呼び出し訓練の見直し及び実施	・行動表作成及び詳細説明 ・消火器及び消火栓の基礎的説明、実地訓練 ・役割担当職員を対象に事前説明を実施   ・呼び出し訓練日の予告
	①研修の見直し・充実	i 新人研修の充実  ii 新人介護職研修の充実  iii 職員研修の充実   iv 人権にかかわる研修の充実  v 研修講座の地域への開放 v 研修講座の地域への開放	i 採用後1週間以内の基礎研修  ii 採用後1か月以内の介護基礎研修と1年間のOJT研修によるフォローアップ  iii 分野ごとに相応しい研修が受講できるように研修を細分化し、それらに到達目標を設定  iv 社会問題化する養介護施設従事者等による虐待など人権侵害を未然に防止する  v 各月程度の割合で法人で開催する研修の一部を地域の介護関係者に開放	i 施設長・管理者・事務局長  ii 介護主任・副主任・実習指導者・ユニットリーダー  iii ケアワーカーおよび事務方スタッフなどにおいては、年間3回程度事前および事後課題を含めた研修を行い、参加者自身の能力を覚知するとともに、それより高い能力の獲得を目指せるようにする。調理スタッフについてはより良い食事の提供に向けた実習を加える  iv 法人のすべての職員  v 研修担当者が研修を企画し、法人内外の介護関係者に有益な講師を調整する	i 新人指導チェックリストを用いたフィードバックの実施  ii 新人指導チェックリストを用いてOJT研修を計画的に実施  iii すべての職員が専門職としての価値や技術、知識を確実に定着させ、実際の業務に活かせるように研修プログラムを工夫し各研修の達成目標に到達できるように研修委員が中心となって丁寧にかかわっていく  iv 集合研修の時間は限られているため、人権侵害にかかる啓発をさまざまな媒体でお行えるようにする  v 法人で開催する研修を社会貢献の一環で地域に開放し、共に介護技術や知識などを高める機会とする

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 事業計画

事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)
②研修参加と資格取得	i ユニットリーダー研修 ii 権利擁護推進員研修 iii 認知症介護実践者研修 iv 介護福祉士実習指導者研修 v 介護福祉士・介護支援専門員資格取得	i ~ iv 年間を通じて  v 試験対策として	i 前期・後期各1名の参加申請 ii ~ iii 和歌山県主催研修に参加  iv 介護福祉士会研修に参加  v 個別学習の援助 勉強会の開催 模擬試験への参加	i ~ iv 外部研修情報の提供 職員の興味・関心を重視した参加者の選考 参加者によるフィードバックの実施  v 受験資格者への働きかけと費用負担を含むサポートを実施
4 地域との連携	①ボランティアの充実	年間を通じて	i 送迎の継続 ボランティア向け研修の実施  iii ボランティアの集いの実施	iii ボランティア参加者の意向を尊重した集いや研修の開催
	②後援会・家族の会との連携	i 年間を通じて ii 敬老の日	i 両会の事務局を担当	i 会報・会合の充実 ii 催しの計画を早期に開始
5 旧施設整理	①旧施設整理の進展	年度内の計画策定	本部事務局において検討	本部事務局において検討

B. 主要月次計画

	4月	5月	6月	7月
上旬	2日 全体職員会		家族の会役員会 後援会役員会	
中旬	職員健康診断 消防設備点検		評議員会	近畿老協研究大会
下旬		理事会		
	8月	9月	10月	11月
上旬			緊急呼出訓練(生馬)	3日 逝去者記念礼拝 建築物定期検査
中旬			消防設備点検	理事会
下旬		30日 創立記念日 昼間想定防災訓練(生馬)		
	12月	1月	2月	3月
上旬				理事会
中旬	職員忘年会			
下旬	25日 クリスマス礼拝・祝会			夜間想定防災訓練(生馬)

2018年度 特別養護老人ホーム(ショートステイ) の課題・目標

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 取組課題

	事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策
2 サー ビス の 質 の 向 上	①ユニットケアの充実	①24時間シートの充実を図りケアプランに沿ったケアを実践する	通年	24時間シートは利用者毎の担当者により観察・更新し、これに沿ったケアをケアプラン会議・ユニット会議で策定し実施する。	多職種によるカンファレンスで詳細に検討する。
		②感染症対策とターミナルケアを充実する  入居者の権利擁護を図り、快適な入居生活を支援する。	通年	各部署間の連携を図り、的確な相談援助や緊急時の対応等が出来るよう業務にあたる。	看取りの振り返りカンファレンスを実施する。  入居契約の際に、相談苦情への受付窓口の説明を徹底する等の丁寧な対応を行う。
	②医療・機能訓練の充実	入居者・利用者の早期異常発見  安全・安楽のための環境整備  ケアプランに沿った個別機能訓練の提供	通年・随時	利用者の日常生活やニーズを正確に把握し異常の早期発見に努める  指さし確認等、具体的な行動により確認を徹底  カラオケ・テレビ体操・やまびこ会・マリア会等、楽しさを伴う種目を提供  居室を訪問し可動域訓練を実施	多職種連携により情報を共有する。  独りよがりのケアにならぬよう報告・連絡・相談を不断に行う。  機能訓練指導員と介護職員との分担により、より個別的な機能訓練メニューを実施する
		③食生活の充実	衛生管理の徹底    個別ケアの提供   新しい献立を取り入れる	通年  通年  通年	・調理室内を清潔に保つ    ・毎朝の衛生チェック  ・各部署と連携をとり、入居者1人1人のニーズに合わせた食事を提供する。  ・調理実習を行う。
	④家族への情報発信	入居者、家族への生活情報等の提供	毎月1回  随時	愛の園ニュースを毎月発行する事により、各月のタイムリーな入居者生活や参加する行事の紹介を行う。  ホームページ・フェイスブックによる情報発信を継続する。	記事と共に写真を多く掲載し生活の豊かさ楽しさが伝わるよう工夫する。
⑤社会資源としての施設の有効活用と利用者の獲得	閉鎖中ユニットの受け入れ再開   退居後の空室期間を可能な限り短縮し、資源の活用を図る  ショートステイ利用者の増加	通年  通年	介護職員の補充に全力を挙げできるだけ速やかに再開する。  入退居手続きを迅速に行い、空室が続くことを防ぐ。	介護職員の定着のためシニアスタッフによるきめ細かい指導を行う。 勤務環境の不備・不足がないか点検を実施する。  新規申込時の面接、待機者情報の更新を毎月行う。	

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 取組課題

	事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるための具体策
3 職員の 資質向上	①研修の見直し・充実、資格取得	内外の研修等に積極的に参加し、資質の向上を図る。園内においてターミナルケア、感染症対策の研修を充実する。	通年	・ターミナルケア、感染症対策の研修を強化する。 ・近畿老協、ユニットケア研究会などの外部研修に参加する。	職員個別の課題と意向を把握した資質の向上に資する研修の選択と、参加後の報告・評価の徹底を図る。
		情報共有の充実	通年	研修や実際の会議・打合せ・申し送りを通じて正確な情報共有を図る	自分の意見・考えを正しく言語化できるよう努める。
		食事献立の充実と調理技術の向上を図る	通年	調理職員による実習	調理職員により検討し様々な食事区分に対応する献立を考える。
		介護福祉士、介護支援専門員等の専門資格を取得する	通年	資格取得のための情報提供と、介護職員実務者研修・国家試験模試の費用を助成する。 受検者による勉強会を支援する。	資格取得を目指す職員に関係する講習会・模擬試験等の情報を提供し、併せて受講・受験時の勤務シフトの配慮、費用の助成等の支援を行う。
		新採用職員へのきめ細かな指導に努める	通年	新採用者毎に担当職員を配置する。	新採用者・担当職員の連携を緊密に行う。 働きやすい環境を整備する。
4 地域との 連携	①ボランティアの充実	ボランティアを行いたい人と施設との橋渡し役として積極的にボランティアを受け入れていく。	通年	・愛の園ホームページなどを使用して積極的にボランティアを募集する。 ・ボランティア活動のための備品整備や送迎により、ボランティア活動を支援する。	各ボランティアの代表者と連絡を保つ。  愛の園でのボランティア活動が円滑に行えるように、必要物品の購入や送迎支援等を行う。
		②家族の会、後援会との連携	家族の会や後援会が行う活動との連携を図り、支援をしていく。	通年	後援会、家族の会の事務局業務を行う

B. 主要予定

	4月	5月	6月 食中毒予防強化月間	7月 食中毒予防強化月間
上旬	イースター	入居者定期健診		七夕飾り
中旬		ウエスタンリーグ観戦	家族の会・後援会役員会	
下旬		春の遠足		夏の模擬店
	8月 食中毒予防強化月間	9月 食中毒予防強化月間	10月	11月
上旬	夏祭り			運動会
中旬		敬老の日「一日我が家」祝膳	秋の遠足	
下旬		創立記念日	岩田幼稚園運動会観覧	
	12月 感染症予防強化月間	1月 感染症予防強化月間	2月 感染症予防強化月間	3月 感染症予防強化月間
上旬		祝賀朝礼 正月祝膳(お節)	節分豆まき	雑祭り祝膳
中旬				
下旬	クリスマス礼拝・祝会・祝膳 餅つき			

2018年度 ユニット活動計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】 注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

U	今年のテーマ	改善に取り組む内容 (課題・実施時期・進め方など)	丁寧に実施していくための具体策 (方法・心掛け・目安など)
1	① 個別ケアの統一と把握	① ユニット職員同士・他部署との連絡・報告・相談の徹底	① 入居者の状況を職員一人一人が把握する。 ② ユニット職員は人任せにせず積極的に課題に取り組みユニット会議等で解決していく。 ③ 口頭での申し送り・PCでの申し送りを徹底し把握しておく。
2	① 個別ケアの把握とケアの統一	① 入居者それぞれの出来る事、出来ない事を把握し職員の都合や職員により異なるケアではなく、入居者主体の統一したケアを提供できるようにする。	① 丁寧な新人指導 ② 各職員が入居者の現状を把握し情報を共有する。 ③ 意見交換がしやすい雰囲気作りに努め、ユニットケアはチームワークが大切である事を各職員が意識して業務にあたる。
3	① ユニット職員間・フロア・他部署との連携と情報の共有。	① 常に職員間のコミュニケーションを図り、申し送りの確認だけではなく、直接話し合いを丁寧に内容を伝え、入居者のケアについて少しの気づきでも話し合い共有し、統一したケアを行うようにする。 ② 問題点や課題があれば他部署への相談と報告を徹底する。	① 毎月のユニット会議への参加と、誰もが意見を言いやすい雰囲気作りをする。 ② 日々、目配り・気配りを心掛け入居者一人ひとりの変化を見逃さない。
4	① 多職種連携のもと、個別ケアを支援する。	① 個々の意向や状況に応じて支援する。 ② 24時間シートをもとにケアの見直しを定期的実施。	① 申し送りメモを活用し、他部署との連携を密にする。 ② 職員1人1人が現状を把握し、ユニット内で情報を共有し合える雰囲気づくりを心掛ける。 ③ 個々の意向や状況に応じて、24時間シートに記録する。記録後、ユニット会議で意見交換し、ケアを統一する。
6 ショート	① ユニット職員の連携 ケアの統一	① 申し送りノートの活用 ② 職員同士の積極的な意見交換	① 個々の職員が、利用者に統一したケアを提供できるよう、責任感を持ち業務にあたる。 ② 職員間で立場に関係なく、改善すべき点を注意、アドバイスし合えるよう信頼関係を築く。



2018年度 ユニット活動計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】 注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

U	今年のテーマ	改善に取り組む内容 (課題・実施時期・進め方など)	丁寧に実施していくための具体策 (方法・心掛け・目安など)
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 入居者1人1人のケアをユニット職員把握し、丁寧に行う。</li> <li>② 細かい事に気がつく様に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 申し送りノートや職員同士のコミにケーションや各部署の連携を密に行う。</li> <li>② 入居者のケアは当たり前で、掃除や備品の使い方等を適切に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 報告、連絡、相談をユニット職員、各部署等こまめに行い、入居者1人1人のケアに繋げる。</li> <li>② 入居者1人1人の表情、状態をこまめにチェックし、同時にユニット内の掃除や備品の使い方を丁寧に行う。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 園内研修での学びを実際の介護に活かす(2017年度、理学療法士大西氏の4回シリーズの研修は実際のケアに落とし込める部分が多く、受講したユニット職員も大いに共感できる内容であった。実際、即日ケアに取り込んだ部分が多くあったので、その部分を継続して行いたい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食事の場面における安楽姿勢についての支援の充実</li> <li>② ベッド臥床時における安楽肢位についての支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 足置き台の設置 入居者ごとに高さを調節したものを作成する。(担当職員)</li> <li>② 車椅子の高さ、姿勢保持のためのクッション等については毎食時に於いて調整する。</li> <li>③ フィッティングの為の詰め物の作成。各入居者のニーズに合わせたものを用意(作成)する。(担当職員)</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 考える力を養い、業務において受動的ではなく能動的に取り組む職員の連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各職員がユニットプランを1月考えて会議で発表し実施していく。</li> <li>② 毎月のユニット会議で、担当入居者については担当者が主になって話し合う。</li> <li>③ 24時間シートや申し送りノートを活用し情報を共有してユニット職員の連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各職員が主体となって1度はユニットプランの計画から実施まで行う。また取り組みたい内容についての進め方も具体的に考えておく。</li> <li>② 会議等で話し合った内容で、他職種にも協力が必要な場合は素早く連絡して情報の共有を図る。担当者が主となって他職種に連絡・報告・相談を行う。</li> <li>③ 申し送りノートは出勤時に必ず目を通し、新たな情報についてはサインを記入する。書かれた内容について分からなければ理解するまで話し合う。</li> <li>④ 24時間シートは状態の変化やケアの内容が変われば素早く変更し更新する。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 入居者一人一人の状況と必要なケア内容を把握し、統一したケアに当たる。</li> <li>② 入居者の身だしなみの徹底。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 入居者の異変を早期発見し、医務室・介護主任の判断を受けて統一したケアを実施する。</li> <li>② 髪・服装・爪・髭等を清潔・小奇麗にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 医務室・介護主任の指示を、口頭・申し送りノートを活用して正確に伝達し、どの職員でも同様の処置・ケアができるようにする。</li> <li>② 自分の身だしなみに置き換えきちんとケアする。</li> </ul>

2018年度 デイサービスセンター 事業計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 事業計画

事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)	
1 理念の継承	神愛会の理念と地域包括ケアシステムの整合性を見ながら当該地域のニーズに即した通所介護事業の推進	①地域・家族への情報発信・相談援助の機会を増やす。 ②当該地域の地域包括ケアシステムにおける社会福祉事業としての位置づけを理解する	①外部への情報発信と家族や地域の方の見学・訪問の機会を増やす。 ②現場スタッフのケースカンファレンス等への参加および対人援助能力の向上	現場スタッフのケースカンファレンスへの参加を増やし本人家族の思いを直接現場に取り入れる形を推進する。 地域に向けてイベントや見学をPRし、家族もともに参加できる研修や見学会の開催	
2 サービスの質の向上	通所介護事業運営の安定	新規顧客の獲得 稼働率の向上	年間5000人以上の利用	①プログラムの充実 ・ADLを向上させるためのエクササイズの研究 ・体を動かした後に休めるスペースの確保 ②ご家族や地域との結びつきを強化し、デイ新聞などを通して居宅事業所・ご家族に通所時の様子や定員の稼働状態を継続して報告 ③送迎対応エリアの再検討	プログラムの充実を図り、参加者にとって効果と魅力のある仕掛けを多く用意する。 地域との結びつきの強化する。 個々の移送技術を向上し、現在の送迎体制を再検討。送迎対応エリアの拡大を検討。
	通所介護計画に沿ったサービス提供	通所介護計画の周知の徹底	通年	ケアプランの策定、検討の機械の頻度を増やす。全員が同じ方向性を以って個別ケアに対応する	ケアプランを検討する頻度を密にし、個別の生活背景・要望・ニーズ・目標等を理解した上で個別ケアを行う事ができる体制づくりを目指す。
	経過記録の改善	通所介護利用時における利用者の客観的な情報の蓄積とその活用	通年 実施はできるだけ早く	バイタルサインだけでなく食事量、水分量、尿量、BMIなどの客観的な情報を電子的に記録し、利用者の状態を見える化する。またこの情報を介護支援専門員などとも共有する。	客観的な情報を丁寧に取り扱いながら、利用者にとって最適なケアを探り、ケアチームにおいても情報が共有していけるように報告書を作成していくことを目指す。
3 職員の資質向上	認知症介護への取り組みと家族支援	相談援助の充実と地域のニーズの掘り起こし	認知症実践者研修に1名参加させる 部署内での認知症に関する研修(随時)	部署内・外部研修を活用し、認知症に関しての正しい知識を得る。 送迎時や訪問時にご家族に適切な相談・援助を行える姿を目指す。	地域の中での通所介護事業の役割を理解でき頼りな研修を取り入れ総合的に援助が行える体制を目指す。
	業務の標準化	通居念	業務マニュアルの更新 部署内会議を活用して検討を進める	業務マニュアルの再編を部署内会議において全てのスタッフが知恵を出し合いよりよいものにしていく 一般の介護マニュアル、服務規程、運営規定等と照らし合わせながら事業所のマニュアルを再構築する。	現状の業務マニュアルを丁寧に直し、個別的であるだけでなく、より効果的で効率的な業務が実践出来ることを目指していく。 そのために必要なエビデンスやニーズについても丁寧に検討出来る様にする。

B. 主要月次予定

	4月	5月	6月	7月
上旬	花見			とれとれ市場
中旬		新緑ドライブ	花壇 花植え	
下旬				
	8月	9月	10月	11月
上旬				
中旬	夏祭り	敬老の日	コスモス畑 外出	
下旬			遠足	紅葉ドライブ
	12月	1月	2月	3月
上旬		初詣 闘鶏神社など		
中旬			梅見ドライブ	菜の花畑
下旬	クリスマス会			

2018年度 居宅介護支援事業 事業計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 事業計画

事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)
1 理念の継承	神愛会の理念に則り、居宅において利用者ひとり一人が尊重され、できるだけ自律した生活が継続できるように生活を支援していきます。	管理者が事業所内の会議において、神愛会の理念と当該地域の地域包括ケアシステムの方向性に留意しながら、まずは週1回の事業所内会議でケースを検討し、月1回の地域ケア会議でも同様のことに留意していく	事業所内の会議については管理者が中心となりケースの検討を通して理念継承に向けた意識を共有していく。地域ケア会議においては、当事業所の介護支援専門員のすべて主任介護支援専門員であることから、その指導的な役割などを意識して対応していく。	地域包括ケアシステムを機能させるためには地域において円滑で効果的なネットワークを形成しなければならない。そのためには、介護支援専門員ひとり一人が神愛会の理念を意識しながら主任介護支援専門員であることを意識し、自らのケースはもとより地域課題にも丁寧に意識を向けていく。
2 サービスの質の向上	当該地域における、地域包括ケアシステムへの参画と地域包括ケアの推進	毎月1回開催される上富田町地域ケア会議に必ず参加し、ケース検討などを通じて参加する他の専門職などと共に地域課題を明らかにしていく。	上富田町地域ケア会議において、事業所としてまた主任介護支援専門員として個別ケースの検討はもとより、そこで明らかになる地域課題に着目していきます。そして、できれば生活のしづらさを抱えた人たちが安心して生活できる地域を共につくっていただけるように、積極的な関わりを惜しまず対応していきます。	上富田町における地域ケア会議は地域ではたらく介護支援専門員と地域包括支援センターなど担当者がケース検討などを行う機会であり、グループスーパービジョンの機能も意識しなければならないため、主任介護支援専門員として丁寧な質問と分析、そして適切なアドバイスができるようにしていきます。
	医療と介護の連携にかかるとる圏域内システムへの協力	くろしおNETが確實、有効に稼働できるように、年度を通して積極的に協力し、5ケース程度は実際にチーム登録を行い、運用を試みる	くろしおNETの参加同意についてできるだけ多くの利用者が行えるように、全ての介護支援専門員が継続して説明を行うと共に、実際に運用を行いながら改善点を明らかにしていく	くろしおNETの説明については個人情報共有という性格から丁寧な説明が費用が必要なことから、年度を通して確実に対応していきます。
3 職員の資質向上	研修の充実	①ケアマネジメントの質を高めるための研修の継続的な受講 ②医療・保健・介護の連携を進めるための取り組みの継続	①ケアマネジメントの専門性を高めより良い支援が行える力をつけるために積極的な必要な研修への計画的な参加 ②圏域内で月1回開催されている医療・保健・介護の連携を進める会への積極的な参加	研修に参加した成果を事業所内及び場合によっては上富田町地域ケア会議において丁寧に共有し、事業所全体の資質向上に繋がるようにする
	資格取得など	すべての介護支援専門員が主任介護支援専門員であることから、できるだけ指導者レベルの研修への参加は必要	左記の研修に参加した上でその研修の到達目標に沿った力が養われる	主任介護支援専門員更新研修へ参加し、スーパービジョンに必要なスキルを身に付ける。このほかにも社会福祉士基礎研修の修了などそれぞれ個別に高い到達目標を達成していく

B. 主要月次予定

	4月	5月	6月	7月
上旬	利用者情報やサービス提供上の留意事項の伝達等を目的とした会議(毎週木曜日)			
中旬	上富田町地域ケア会議		田辺圏域医療と介護の連携を進める会定例会への参加	
下旬				ソーシャルワーカー参画と参加
	8月	9月	10月	11月
上旬	利用者情報やサービス提供上の留意事項の伝達等を目的とした会議(毎週木曜日)			
中旬	上富田町地域ケア会議		田辺圏域医療と介護の連携を進める会定例会への参加	
下旬	主任介護支援専門員更新研修への参加			
	12月	1月	2月	3月
上旬	利用者情報やサービス提供上の留意事項の伝達等を目的とした会議(毎週木曜日)			
中旬	上富田町地域ケア会議		田辺圏域医療と介護の連携を進める会定例会への参加	
下旬			日本社会福祉士会近畿ブロック研修会への参加	近畿介護支援専門員研究大会IN京都への参加

2018年度 深和ホーム 事業計画

「丁寧さ」をキーワードにそれぞれの事業の充実を目指します。

【丁寧】注意深く念入りであること 細かい点まで注意が行き届いていること 動作や言葉遣いが礼儀正しく心がこもっていること

A. 事業計画

事業計画	取組課題	目標 (回数・期間・分量など)	方法 (担当・仕組みなど)	「丁寧」であるために (質を高める具体策)
1 理念の継承	キリスト教精神に基づいて運営されている施設である事の自覚を持って業務にあたる。	年間を通して	朝のレポートで各部署の1日の業務を共通理解する。 申し送り事項の把握・対応	各自の使命感の自覚
2 サービスの質の向上	①高齢化に伴う入居者の安全。安心な生活の支援 新規入居者の獲得	年間を通して	入居者の状態把握、訪問介護・看護事業所、ケアマネとの連携。 ナースコールの新設 介護保険利用による住宅改修。 イベント体験の継続	関わる者が連携して、入居者の方々が安心して生活出来る様に支援するという気持ちを持つこと。 体験入居に来られる方を職員全員でおもてなしの心で迎える。
	②入居者の終末の希望の把握、適用	必要に応じて	入居者の希望の把握と身元引受人、関係者との連携を図っていく。 ホームからのお願いの様式に基づいた個別面談の継続。	個人の意志を尊重する。
	③老朽化した建物の維持管理	年間を通して	自分達で行える事は自分達で行う。 必要な時は業者に依頼。	自分達で変えていこうという認識を持って関わる。 皆で意見を出し合い各自が関わっているという認識をもつ。

B. 主要月次計画

	4月	5月	6月	7月
上旬	春の遠足			
中旬		ふれあい行事	ふれあい行事	ふれあい行事
下旬				
	8月	9月	10月	11月
上旬				
中旬	ふれあい行事	敬老の祝膳	ふれあい行事	ふれあい行事
下旬				
	12月	1月	2月	3月
上旬		元旦の祝膳		ひな祭りの祝膳
中旬	クリスマスイブの祝膳	ふれあい行事	ふれあい行事	ふれあい行事
下旬				